

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100076		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なごみ・みよせの里		
所在地	和歌山県日高郡日高川町三百瀬973番地		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_021_kani=true&JiyosyoCd=3092100076-00&ServiceCd=730&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人と事業所とも、多くの人の協力で立ち上げた、非営利の法人であり事業所である。利用者一人一人の思いを大切にすること、おしゃべりと笑顔を大切にすること、ゆっくりのんびりいきいきを大切にすること、地域との繋がりを大切にすることなどを経営理念としている。建物は木造平屋で、民家が建て込んでいない静かな自然豊かな場所にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

NPOが運営する事業所であり、2年7カ月の準備期間を経て、地域の高齢者の安らぎの場となるよう会員の思いを込めて2016年に開設された。屋外で楽しめる場として、事業所の近くに菜園・果樹園・休憩所も整備している。併設の小規模多機能サービス施設と一体となった建物は、木の温もりが感じられ、地域の拠点として地域住民と交流できるサロンが用意されている。サロンを活用して地域とのつながりを大切にしながら様々な取り組みを展開してきたが、新型コロナウイルス感染防止のため地域住民との交流が困難となり、十分な力を発揮できない状況が続いている。訪問や外出が制限される状況下であっても、施設内での行事や菜園への散歩など、創意工夫しながら入居者が笑顔で暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(コロナ禍により)
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない(コロナ禍により) 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識して、住み慣れた地域で安心して安全に生活できるよう支援、努力している。	一人ひとりの思いを大切に、ゆっくりのんびりいきいきとの願いを込め、わかりやすく親しみを持てる表現の理念が作られた。職員間で理念を共有し居心地の良い空間のなかで入居者がその人らしく笑顔で暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々とサロン(週1回)や食事会(月1回)を実施、交流を図っていましたが、今年はコロナ禍で2月以降実施できていない。11月に中学校のマラソン大会があり、玄関先で応援しました。	2ヶ月毎にニコニコ通信を作り、近隣住民・区長・民生委員等に配付し、行事や入居者の様子を伝えている。新型コロナウイルス感染症の影響に伴いサロンでの交流行事の中止が続いているが、例年はサロンを活用して様々な交流を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント等をする事で、認知症の人の事が少しでも理解してもらえる様努めているが、今年はコロナ禍でイベント等も中止、地域にはまだまだ知られていない点も多いので、取り組んでいく努力が必要です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に行って事業所の運営状況を報告して意見を出し合っていたが、4月以降はコロナ禍のため文書による運営推進会議を行っている。	運営推進会議は複合施設内のサービス全体で開催している。入居者・家族・老人クラブ・農業委員等が出席し、出された意見を運営に取り入れている。現在は新型コロナの影響で、書面での開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度で分からない事や、ちょっとした相談でも気軽に出来ている。地域ケア会議にも参加している。	町の担当者とは、気軽に相談し情報をもらえる関係が築けている。月1回の地域ケア会議に参加しており、来年度からはリモートでの開催となるため準備を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束「ゼロ」という事は常に頭に入れ対応している。転倒防止のために利用者様が安全に行動できるよう支援するために、離床センサーを活用させて頂いています。	入居者の安全確保を重視し、具体的な場面を会議で話し合い、職員が手薄になる夜間のみ、3名の入居者に離床センサーを使用している。普段の言葉使いが心理的な圧迫とならないよう、職員同士で振り返りを行っている。	さらに、一人ひとりの入居者の立場に立って考え、身体拘束につながる行為や言葉遣いを防ぎ、より一層入居者の自由を守りながら安全確保していく取り組みを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や態度等の心理的な虐待にも十分注意し、本人の気持ちを考えプライドを損なわないような言葉かけや援助を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない。学習の機会を設け、経験、職種、職責にかかわらず、徹底、不適切なケアを放置しないような風通しの良いチームケアを行える様努力が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や入院時などで、その都度利用者や家族に説明し、十分理解をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、毎日の生活の中で希望や要望を聞き、外出等行っている。 家族には隔月発行のニュースで、利用者の生活の様子を伝えている。面会も現在行っていないが、電話で利用者様の様子を伝えて、家族の意見も聞き反映している。	家族からは訪問時や運営推進会議で意見等聴取していたが、現在、家族と直接会うことができない状況のため、電話でのやり取りにて意見を聞いている。家族会を作る話し合いを進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中断している。	直接会えない家族に対しては、意向を聞くためにアンケートの実施等の工夫が望まれる。また、今後、家族会が設立され、より多くの声が運営に反映されることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、運営についても自由に意見や提案を出して合っている。	常日頃から職員が管理者に意見を言いやすい関係性が築けており、会議やミーティング、2カ月毎の経営会議の中で出された意見は迅速に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善は要望に沿い可能な限り即取り組んでいる。少額ではあるが、年2回の賞与を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で職員の経験などを出し合って、お互いに学ぶようにしている。現在介護福祉士、ケアマネージャー、管理者それぞれの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議に参加し、同業者と交流する機会を持ち、情報を共有し、職員に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの言動、行動の背景の意味を探り、価値観を統一して、同じ方向性で生活を支えるためにチームケアで努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での本人の生活、家族の思いを十分お聞きして、家族との信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が初期に不安になるのは、本人が施設で安心した穏やかな生活ができるかという事が多い。その事を中心に本人や家族とよく話し合うことにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることに着目し、本人のできることは手伝いすぎず、できたことに対して一緒に喜べるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を把握しつつ、少しでも家族と本人が良い方向に支援できる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住まれていた場所にドライブしたり、馴染みのお店で買い物したり、本人の希望の所に出かけられるよう支援している。	現在は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、家族とも窓越しにしか会えない状況となっているが、近隣の入居者が多いので、住み慣れた家や風景、馴染みの場所にドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション(毎朝の体操、塗り絵、おやつ作り、カラオケ、ドライブ、ゲーム、ピクニック等)を通じて、一緒に時間を過ごすことで、自然とコミュニケーションが図れる機会を多く持てる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した場合でも、特養への申請や居宅のケアマネージャーを紹介したり、必要に応じて相談を受け支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や気持ちを把握できる様、日々努力している。	入居者との日常の会話で、好きなことを聞き、言葉に出ないときは表情や態度で理解するようにしている。行きたい所の希望を聞いて取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からよくお聞きし、情報を共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	理念の一つが、のんびりゆっくりいきいきを大切にすることであり、実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で利用者の状況はよく話し合っている。その内容を把握し、ケアマネージャーが介護計画を作成している。家族からの要望も計画の中へ入れ作成している。	3ヶ月毎のモニタリングは、会議で個別にケアのあり方を話し合い共有が図られている。車いすは、移動するための使用とし、椅子に座り変るなど、入居者主体の生活ができるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の記録は作成している。情報の共有は、朝夕の口頭申し送りや申し送りノートを活用し実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズには、すぐに対応できるよう、常に柔軟に対応することを基本にし取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所づくりは、地域の方と共に取り組んできたこともあり、事業所のサロンは地域のボランティアが多く関わってくれていたが、コロナ禍の中で現在はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は大切にしているが、コロナ禍の中で受診することが大変になってきている。施設の協力医に2週間に1回定期的に往診に来ていただいているので、本人、家族と相談の上、主治医を協力医に変更した利用者も居る。	入居者個別のかかりつけ医への受診を継続しているが、新型コロナの影響で、現状はかかりつけ医の受診ができず、全員が2週間毎に協力医の往診を受けている。常勤の看護師が配置されており、緊急時には医師からの指示を受けて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、必要に応じて日常的に相談できている。夜間でも常に看護師と連絡が取れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際の医療機関として、ひだか病院、北出病院、和歌山病院との連携ができている。各病院の地域連携室や担当看護師から情報交換し、互いに相談できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、家族さんから終末期についての方向性をお聞きしている。本人の状態に変化がある時は、家族、職員、医師を交え相談する機会を設けている。	終末期にはできることを落ちついて行い、安心のうえ納得して終末を迎えられるよう、看護師を中心にした勤務体制を組んで対応している。また、家族にも泊まっていただくこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指示で日常的に対応できている。緊急時の必要書類は常時準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今夏、自家発電装置を設置し、災害時の対応に準備できている。定期的に避難訓練を行っている。地域との協力体制も築いている。	災害時に備え、年2回入居者と共に避難訓練を実施している。自家発電装置・5日間の備蓄品を用意し、地域住民の避難場所としても施設を提供できるようにしている。	今後、夜間を想定した避難訓練も行われることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時、失禁のパット交換時等、プライドを傷つけない様声掛けし、人格の尊重に気を付け対応している。	プライドを守り傷つけないよう、その人らしさを大切にすることに取り組んでいる。排泄等の際には羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の発した言葉を聞き逃さず、希望や気持ちを把握できる様に出来る限り自己決定できるような声掛けや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念に沿って、一人ひとりの思いを大切に、ゆっくり十分にコミュニケーションを図り、自己決定を尊重し楽しく安全に安心して生活が送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容室の先生が来られ、希望者が自由に利用でき、好みの髪型にできるよう援助しています。また能力に応じて毎朝好みの服を選択できるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設の調理職員が提供しているもので、一緒に調理することは無いですが、豆むきなどを手伝ったり、食前、食後にテーブルを拭いてくれたりしている。おやつレクリエーションを活用して一緒に協力しながらおやつ作りを楽しんでいます。	入居時に、今まで使用していた茶碗・湯呑み・箸を持参していただき施設にて使用してもらっている。楽しい雰囲気づくりを大切にしながら、職員も一緒にテーブルにて食事をともにしている。ホットケーキなど、希望を取り入れたおやつ作りを皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事量、水分摂取量を記録している。また食べ物の好みや習慣把握、声掛けや誘導の工夫をして、おいしく楽しく食事ができる様支援する様心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後の口腔ケアは徹底されていますが、今後毎食後利用者の力を引き出しながら習慣となるよう清潔保持に努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録し、排泄パターンを把握して、尊厳に配慮し声掛け、トイレでの排泄に心がけている。	オムツに頼らないで、日中は全員トイレで排泄できるように支援している。パッドの使用は日中と夜間で使い分け、排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を実施、毎日座ってできる体操や散歩などの活動を心がけ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度や時間帯など、本人の生活スタイルを把握し、浴室を温めリラックスできる環境を整え、本人のペースを確認しながら介助できている、浴槽内のお湯は一人一人交換している。	午前中に、週2~3回入浴できるように支援している。入浴中は、疲れすぎないように、時間をチェックしながら声かけを行うなど、介助や見守りを実施している。入浴を嫌がる人にも、抵抗なく入浴できるように一人ひとりに合わせた工夫で誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活リズムをつくり、日中の活動量を増やし、就寝環境を整え、安心して入眠できるよう支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の目的、副作用、用量用法をファイルして、目の届く所に常時閲覧できるよう配慮している。また、ふらつきなどの副作用については、転倒、リスクを心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の花を育てて、散歩コースの楽しみとなっている。また毎週土曜日はカラオケをして、ストレス発散、楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換のため、ドライブ等に時々出かけていたが、現在はコロナ禍のため、希望に沿った場所には行けていない。	現在は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、外出しにくい状況にあるが、行きたい希望を取り入れてドライブで出かけている。気候の良いときには近くの菜園まで歩いたり、屋外に椅子を置いて外気に触れて過ごす機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて使えるように支援している。お金は家族から委託を受けて施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人からの要望があれば、電話で話をしたり、小包が届く場合もあり、お礼の電話をしたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建築の特色を生かし、リビングは天井が高く、ゆったりと過ごせる空間となっている。	天井からの陽射しは、カーテンで調節する工夫がされている。入居者が多くの時間を過ごしているリビングには、各々が自由にくつろげるよう、ソファや畳のスペースも用意されている。入居者の共同作品が飾られるとともに、たくさんの胡蝶蘭の小鉢が置かれ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を敷いており、座ったり横になったり、くつろげる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使っていた家具を持ってきてもらったり、家族の写真や好みの小物を飾っている。布団や毛布も自宅で使用していたものを持ってきてもらっている。	居室のドアは、それぞれ異なったデザインになっている。入居時に使い慣れたタンス・毛布等が持ちこまれるとともに、大切にしている写真や小物が置かれ、各部屋ともその人らしく生活できる環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやポータブルトイレの設置は、一人ひとりの動線を考え工夫している。		